

《令五年度 暗唱⑧》

「新しい学校」(『窓ぎわのトットちゃん』より)

黒柳 徹子

学校の門が、はっきり見えるところまできて、トットちゃんは、立ち止まった。なぜなら、この間まで行っていた学校の門は、りっぱなコンクリートみたいな柱で、学校の名前も、大きく書いてあった。ところが、この新しい学校の門ときたら、低い木で、しかも葉っぱが生えていた。

「地面から生えてる門ね。」
と、トットちゃんはママにいった。そうして、こう、つけ加えた。

「きつと、どんどん生えて、いまに電信柱より高くなるわ。」

たしかに、その二本の門は、根っこのある木だった。トットちゃんは、門に近づくと、いきなり顔を、ななめにした。なぜかといえは、門にぶらさげである学校の名前を書いた札が、風に吹かれたのか、ななめになっていたからだだった。

「トモエがくえん。」

トットちゃんは、顔をななめにしたまま、表札を読みあげた。